

の presenteeism と 8.9 % の presenteeism となり、定型・代替え中間型の業務のほうが職場の業務への影響が大きいことがわかる。

さらに、60 歳以上の場合、個人の presenteeism の評価が 60 歳未満に比較して低く出ている傾向があり、それを補正する必要があり、60 歳代以上の場合、そのポイントを（表 17）の値で除法した。

## 2) 個人の presenteeism、および presenteeism の職場のインパクトの算出方法

### (1) 個人の presenteeism の算出

個人の presenteeism はあくまで、個人の自覚的な指標であるため、年齢による補正は必要ないと考える。

① presenteeism の 8 項目を「よくある (3)」「時々ある (2)」「あまりない (1)」「まったくない (0)」の 4 段階で聞いているため、各項目の合計点 (24-0) を算出する。合計点 24 ポイントの人は 8 項目が全部「よくある (3)」と回答しており、全く労働生産性が欠如していると考えられるため presenteeism を 100% と換算し、合計点 0 点の人は presenteeism 0% と換算する。

② それに 4.13 を乗算する。

例えば、合計点が 20 ポイントの場合、 $20 \times 4.13 = 82.6$  (%) となる。

### (2) presenteeism の職場のインパクトの算出方法

① 個人の presenteeism 8 項目の回答の内、「よくある」と回答した場合、それぞれ 1 ポイントと換算する。

② 各 presenteeism の 1 ポイント、あるいは 0 ポイントに職業の特徴に応じたポイント（表 15）（図 4）を乗算する。

③ さらに、60 歳代以上の場合、そのポイントを（表 17）（図 4）の値で除法する。

④ 年齢による補正值を計算した得点を合計し、1.25 倍する。

⑤ 合計点から 10 ポイントを減算する。

## 4. 研究の限界

研究 2 では、上司による presenteeism の職場に与える評価を検討した。業務の特徴を定型性と代替え可能性を組み合わせ、presenteeism のインパクトを推定しているが、非定型代替え中間に分類された件数は 333 件であり十分に妥当であると考えるが、定型熟練は 10 件であり、係数を算出するには少ない件数である。また、今回は研究 2 で部下を一人以上持つ上司を対象に調査を行ったが、事務従事者、サービス職業従事者、生産工程従事者の 3 職種であった。その他の職業に、今回の presenteeism の職場への影響が当てはまるかどうかは、今後の検討を待たなくてはならない。本研究では、労働者個人の presenteeism の算出方法と、個人の presenteeism が職場に与える影響の算出方法を提案した。

この計算方法は、presenteeism の回答の「よくある」のみに 1 ポイントを与え、それ以外は 0 としているため、presenteeism を過少に評価する傾向にあることを考慮する必要がある。

## E. 結論

本研究の限界で示した通り、様々な限界はあるものの、労働者個人の presenteeism が職場に与える影響に着目し、その算出方法を考察し presenteeism の職場に与える影響を考える際のモデルとなる要素を提案している。

また、労働者個人の presenteeism および職場への影響を測定するための質問紙を図 3 に、個人の presenteeism および、presenteeism の職場への影響の算出方法を図 4 に示した。

また、個人の presenteeism 尺度および計算式、presenteeism の職場に与えるインパクトに関する計算式は Web で公開した。

## F. 引用・参考文献

1. 山下未来、荒木田美香子.Presenteeism の概念分析及び本邦における活用可能性.産業衛生学雑.48 (6) : 201-213.2006
2. Selekler HM1, Gökmen, Alvur TM, Steiner TJ. Productivity losses attributable to headache, and their attempted recovery, in a

heavy-manufacturing workforce in Turkey: implications for employers and politicians.. J Headache Pain. 16(96).1-8.2015.

3. 厚生労働省.患者調査.平成 23 年受療率.国民衛生の動向.2015/2016. p 442.2015.

4. 経済産業省 . 健康経営銘柄とは .[http://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/healthcare/kenko\\_meigara.html](http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kenko_meigara.html)

5. Pelletier B, Boles M, Lynch W. Change in health risks and work productivity over time. J Occup Environ Med (6) : 746-754. .2004

6. Kumar RN, Hass SL, Li JZ, Nickens DJ, Daenzer CL, Wathen LK. Validation of the Health - Related Productivity Questionnaire Diary (HRPQ-D) on a sample of patients with infectious mononucleosis : results from a phase 1 multicenter clinical trial. J Occup Environ Med.45 : 899-907. 2003

## G. 研究発表

平成 25 年度 : 学会発表

- 1.荒木田 美香子, 根岸 茂登美, 森 晃爾, 大谷 喜美江, 松田 有子, 青柳 美樹, 古畑 恵美子.日本版 presenteeism 尺度の開発 β 版の信頼性・妥当性の検討.日本公衆衛生学会総会抄録集.74 回 Page561.2015

表1 回答者の情報

N=500		
	人数/平均値	%(SD)
性別		
男性	303	60.6
女性	197	39.3
職種別		
事務従事者	317	63.4
サービス職業従事者	125	25
生産工程従事者	58	11.6
職位		
グループ長相当	133	26.6
係長相当	137	27.4
課長相当	86	17.2
部長相当	22	4.4
その他	122	24.4
現職場での状況		
勤務年数(年)	14.4	(10.2)
部下の人数(人)	5.4	(8.7)
上司としての年数(年)	6.1	(6.4)

表2 現在の業務の特徴

N=500		
特性	人数	割合(%)
定型的な業務であるか否か		
定型的に近い	117	23.4
やや定型的に近い	223	44.6
どちらともいえない	83	16.6
やや非定型的に近い	56	11.2
非定形的に近い	21	4.2
繰り返しの多さ		
繰り返しの多い	128	25.6
やや繰り返しの多い	227	45.4
どちらともいえない	93	18.6
やや繰り返しが少ない	42	8.4
繰り返しが少ないほう	10	2.0
代替の可能性		
代替の人ができるに近い	44	8.8
やや代替の人ができる	131	26.2
どちらともいえない	142	28.4
やや熟練者を要する	135	27.0
熟練者を要するほう	48	9.6
定型性と代替可能性の組み合わせ*		
定型代替可能	32	6.4
定型代替中間	75	15.0
定型熟練	10	2.0
非定型代替可能	12	2.4
非定型代替中間	333	66.6
非定型熟練	38	7.6

表2-1 業務の特徴と職種の関係

		職業			合計	p
		事務	サービス 職業	生産工程		
定型代替 え可能	人数	23	7	2	32	<0.000
	%	7.3%	5.6%	3.4%	6.4%	
定型代替 え中間	人数	44	14	17	75	
	%	13.9%	11.2%	29.3%	15.0%	
定型熟練	人数	5	4	1	10	
	%	1.6%	3.2%	1.7%	2.0%	
非定型代 替え可能	人数	7	3	2	12	
	%	2.2%	2.4%	3.4%	2.4%	
非定型代 替え中間	人数	223	76	34	333	
	%	70.3%	60.8%	58.6%	66.6%	
非定型熟 練	人数	15	21	2	38	
	%	4.7%	16.8%	3.4%	7.6%	
合計	人数	317	125	58	500	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表3 業務の特性(定型性)とPresenteeisの影響(業務への影響:インパクト)の関係

		N=500		
		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む)に集中できない	定型的に近い	117	4.79	0.004
	やや定型的に近い	223	5.71	
	どちらともいえない	83	5.64	
	やや非定型的に近い	56	5.29	
	非定型的に近い	21	6.19	
	合計	500	5.46	
B.仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	定型的に近い	117	5.15	0.189
	やや定型的に近い	223	5.69	
	どちらともいえない	83	5.66	
	やや非定型的に近い	56	5.36	
	非定型的に近い	21	5.52	
	合計	500	5.51	
C.できる仕事の量や強度が少ない	定型的に近い	117	6.50	0.834
	やや定型的に近い	223	6.44	
	どちらともいえない	83	6.65	
	やや非定型的に近い	56	6.41	
	非定型的に近い	21	6.81	
	合計	500	6.50	
D.作業がはかどらず仕事が終わらない	定型的に近い	117	5.74	0.041
	やや定型的に近い	223	6.38	
	どちらともいえない	83	5.75	
	やや非定型的に近い	56	6.04	
	非定型的に近い	21	6.10	
	合計	500	6.07	
E.仕事上の間違いや失敗をする	定型的に近い	117	5.91	0.315
	やや定型的に近い	223	6.43	
	どちらともいえない	83	6.17	
	やや非定型的に近い	56	6.05	
	非定型的に近い	21	6.24	
	合計	500	6.21	
F.通勤での困難がある	定型的に近い	117	4.64	0.461
	やや定型的に近い	223	4.93	
	どちらともいえない	83	4.67	
	やや非定型的に近い	56	4.89	
	非定型的に近い	21	4.00	
	合計	500	4.78	
G.職場でのコミュニケーションがとりにくい	定型的に近い	117	4.89	0.048
	やや定型的に近い	223	5.56	
	どちらともいえない	83	5.66	
	やや非定型的に近い	56	5.61	
	非定型的に近い	21	6.05	
	合計	500	5.45	
H.他の社員の手助けや援助が必要である	定型的に近い	117	5.72	0.196
	やや定型的に近い	223	6.22	
	どちらともいえない	83	6.30	
	やや非定型的に近い	56	6.00	
	非定型的に近い	21	6.52	
	合計	500	6.10	

業務への影響:まったく影響しない 1~非常に影響が大きい 10

表4 業務と特性(定型性)とPresenteeism(部課内で業務を調整する必要性)

N=500

		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む) に集中できない	定型的に近い	117	5.13	0.006
	やや定型的に近い	223	6.02	
	どちらともいえない	83	5.63	
	やや非定型的に近い	56	5.73	
	非定型的に近い	21	6.48	
	合計	500	5.73	
B.仕事をするのに人 より多く休憩を必要と する	定型的に近い	117	4.85	0.037
	やや定型的に近い	223	5.62	
	どちらともいえない	83	5.45	
	やや非定型的に近い	56	5.45	
	非定型的に近い	21	5.71	
	合計	500	5.40	
C.できる仕事の量や 強度が少ない	定型的に近い	117	5.39	0.221
	やや定型的に近い	223	5.90	
	どちらともいえない	83	5.73	
	やや非定型的に近い	56	5.86	
	非定型的に近い	21	6.14	
	合計	500	5.76	
D.作業がはかどらず 仕事が終わらない	定型的に近い	117	5.32	0.018
	やや定型的に近い	223	6.11	
	どちらともいえない	83	5.65	
	やや非定型的に近い	56	5.88	
	非定型的に近い	21	6.33	
	合計	500	5.83	
E.仕事上の間違いや 失敗をする	定型的に近い	117	5.68	0.611
	やや定型的に近い	223	6.04	
	どちらともいえない	83	5.83	
	やや非定型的に近い	56	5.93	
	非定型的に近い	21	5.43	
	合計	500	5.88	
F.通勤での困難があ る	定型的に近い	117	4.40	0.203
	やや定型的に近い	223	5.01	
	どちらともいえない	83	4.71	
	やや非定型的に近い	56	4.98	
	非定型的に近い	21	4.33	
	合計	500	4.79	
G.職場でのコミュニ ケーションがとりにく い	定型的に近い	117	4.53	0.001
	やや定型的に近い	223	5.52	
	どちらともいえない	83	5.45	
	やや非定型的に近い	56	5.46	
	非定型的に近い	21	6.19	
	合計	500	5.30	
H.他の社員の手助け や援助が必要である	定型的に近い	117	5.31	0.036
	やや定型的に近い	223	6.01	
	どちらともいえない	83	5.92	
	やや非定型的に近い	56	5.89	
	非定型的に近い	21	6.57	
	合計	500	5.84	

課内で業務を調整する必要性:きわめて低い1~極めて高い10

表5 業務と特性(定型性)とPresenteeism(他部門と業務を調整する必要性)

		N=500		
		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む) に集中できない	定型的に近い	117	4.79	0.004
	やや定型的に近い	223	5.71	
	どちらともいえない	83	5.64	
	やや非定型的に近い	56	5.29	
	非定型的に近い	21	6.19	
	合計	500	5.46	
B.仕事をするのに人 より多く休憩を必要と する	定型的に近い	117	5.15	0.189
	やや定型的に近い	223	5.69	
	どちらともいえない	83	5.66	
	やや非定型的に近い	56	5.36	
	非定型的に近い	21	5.52	
	合計	500	5.51	
C.できる仕事の量や 強度が少ない	定型的に近い	117	6.50	0.834
	やや定型的に近い	223	6.44	
	どちらともいえない	83	6.65	
	やや非定型的に近い	56	6.41	
	非定型的に近い	21	6.81	
	合計	500	6.50	
D.作業がはかどらず 仕事が終わらない	定型的に近い	117	5.74	0.041
	やや定型的に近い	223	6.38	
	どちらともいえない	83	5.75	
	やや非定型的に近い	56	6.04	
	非定型的に近い	21	6.10	
	合計	500	6.07	
E.仕事上の間違いや 失敗をする	定型的に近い	117	5.91	0.315
	やや定型的に近い	223	6.43	
	どちらともいえない	83	6.17	
	やや非定型的に近い	56	6.05	
	非定型的に近い	21	6.24	
	合計	500	6.21	
F.通勤での困難があ る	定型的に近い	117	4.64	0.461
	やや定型的に近い	223	4.93	
	どちらともいえない	83	4.67	
	やや非定型的に近い	56	4.89	
	非定型的に近い	21	4.00	
	合計	500	4.78	
G.職場でのコミュニ ケーションがとりにく い	定型的に近い	117	4.89	0.048
	やや定型的に近い	223	5.56	
	どちらともいえない	83	5.66	
	やや非定型的に近い	56	5.61	
	非定型的に近い	21	6.05	
	合計	500	5.45	
H.他の社員の手助け や援助が必要である	定型的に近い	117	5.72	0.196
	やや定型的に近い	223	6.22	
	どちらともいえない	83	6.30	
	やや非定型的に近い	56	6.00	
	非定型的に近い	21	6.52	
	合計	500	6.10	

他部門と業務を調整する必要性:きわめて低い1~極めて高い10



表6 業務の特性(繰り返しが多い)とPresenteeisの影響(業務への影響:インパクト)の関係

		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む)に集中できない	繰り返しに近い	128	5.20	0.507
	やや繰り返しに近い	227	5.52	
	どちらともいえない	93	5.45	
	やや繰り返しが少ない	42	5.74	
	繰り返しが少ないほう	10	6.20	
	合計	500	5.46	
B.仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	繰り返しに近い	128	5.30	0.258
	やや繰り返しに近い	227	5.57	
	どちらともいえない	93	5.60	
	やや繰り返しが少ない	42	5.38	
	繰り返しが少ないほう	10	6.70	
	合計	500	5.51	
C.できる仕事の量や強度が少ない	繰り返しに近い	128	6.57	0.544
	やや繰り返しに近い	227	6.41	
	どちらともいえない	93	6.52	
	やや繰り返しが少ない	42	6.55	
	繰り返しが少ないほう	10	7.40	
	合計	500	6.50	
D.作業がはかどらず仕事が終わらない	繰り返しに近い	128	5.95	0.836
	やや繰り返しに近い	227	6.08	
	どちらともいえない	93	6.27	
	やや繰り返しが少ない	42	5.95	
	繰り返しが少ないほう	10	6.20	
	合計	500	6.07	
E.仕事上の間違いや失敗をする	繰り返しに近い	128	6.27	0.964
	やや繰り返しに近い	227	6.16	
	どちらともいえない	93	6.16	
	やや繰り返しが少ない	42	6.40	
	繰り返しが少ないほう	10	6.20	
	合計	500	6.21	
F.通勤での困難がある	繰り返しに近い	128	4.81	0.457
	やや繰り返しに近い	227	4.77	
	どちらともいえない	93	4.78	
	やや繰り返しが少ない	42	5.02	
	繰り返しが少ないほう	10	3.40	
	合計	500	4.78	
G.職場でのコミュニケーションがとりにくい	繰り返しに近い	128	5.23	0.329
	やや繰り返しに近い	227	5.36	
	どちらともいえない	93	5.66	
	やや繰り返しが少ない	42	5.95	
	繰り返しが少ないほう	10	6.00	
	合計	500	5.45	
H.他の社員の手助けや援助が必要である	繰り返しに近い	128	5.96	0.920
	やや繰り返しに近い	227	6.15	
	どちらともいえない	93	6.10	
	やや繰り返しが少ない	42	6.24	
	繰り返しが少ないほう	10	6.30	
	合計	500	6.10	

業務への影響:まったく影響しない 1~非常に影響が大きい 10

表7 業務と特性(繰り返しが多い)とPresenteeism(部課内で業務を調整する必要性)

		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む)に集中できない	繰り返しに近い	128	5.39	0.192
	やや繰り返しに近い	227	5.81	
	どちらともいえない	93	6.03	
	やや繰り返しが少ない	42	5.90	
	繰り返しが少ないほう	10	5.00	
	合計	500	5.73	
B.仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	繰り返しに近い	128	5.16	0.230
	やや繰り返しに近い	227	5.41	
	どちらともいえない	93	5.74	
	やや繰り返しが少ない	42	5.52	
	繰り返しが少ないほう	10	4.50	
	合計	500	5.40	
C.できる仕事の量や強度が少ない	繰り返しに近い	128	5.69	0.866
	やや繰り返しに近い	227	5.73	
	どちらともいえない	93	5.97	
	やや繰り返しが少ない	42	5.67	
	繰り返しが少ないほう	10	5.70	
	合計	500	5.76	
D.作業がはかどらず仕事が終わらない	繰り返しに近い	128	5.62	0.597
	やや繰り返しに近い	227	5.90	
	どちらともいえない	93	5.95	
	やや繰り返しが少ない	42	5.98	
	繰り返しが少ないほう	10	5.20	
	合計	500	5.83	
E.仕事上の間違いや失敗をする	繰り返しに近い	128	6.05	0.541
	やや繰り返しに近い	227	5.74	
	どちらともいえない	93	5.98	
	やや繰り返しが少ない	42	6.12	
	繰り返しが少ないほう	10	5.10	
	合計	500	5.88	
F.通勤での困難がある	繰り返しに近い	128	4.62	0.367
	やや繰り返しに近い	227	4.79	
	どちらともいえない	93	5.05	
	やや繰り返しが少ない	42	4.95	
	繰り返しが少ないほう	10	3.60	
	合計	500	4.79	
G.職場でのコミュニケーションがとりにくい	繰り返しに近い	128	4.91	0.195
	やや繰り返しに近い	227	5.34	
	どちらともいえない	93	5.68	
	やや繰り返しが少ない	42	5.38	
	繰り返しが少ないほう	10	5.40	
	合計	500	5.30	
H.他の社員の手助けや援助が必要である	繰り返しに近い	128	5.61	0.520
	やや繰り返しに近い	227	5.92	
	どちらともいえない	93	5.88	
	やや繰り返しが少ない	42	6.19	
	繰り返しが少ないほう	10	5.30	
	合計	500	5.84	

課内で業務を調整する必要性:きわめて低い1~極めて高い10

表8 業務と特性(繰り返しが多い)とPresenteeism(他部門と業務を調整する必要性)

		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む) に集中できない	繰り返しに近い	128	5.21	0.128
	やや繰り返しに近い	227	5.37	
	どちらともいえない	93	5.74	
	やや繰り返しが少ない	42	5.83	
	繰り返しが少ないほう	10	4.20	
	合計	500	5.41	
B.仕事をするのに人 より多く休憩を必要と する	繰り返しに近い	128	4.65	0.060
	やや繰り返しに近い	227	5.15	
	どちらともいえない	93	5.46	
	やや繰り返しが少ない	42	5.40	
	繰り返しが少ないほう	10	4.40	
	合計	500	5.09	
C.できる仕事の量や 強度が少ない	繰り返しに近い	128	4.98	0.090
	やや繰り返しに近い	227	5.37	
	どちらともいえない	93	5.70	
	やや繰り返しが少ない	42	5.62	
	繰り返しが少ないほう	10	4.50	
	合計	500	5.33	
D.作業がはかどらず 仕事が終わらない	繰り返しに近い	128	5.17	0.168
	やや繰り返しに近い	227	5.55	
	どちらともいえない	93	5.75	
	やや繰り返しが少ない	42	6.07	
	繰り返しが少ないほう	10	5.50	
	合計	500	5.53	
E.仕事上の間違いや 失敗をする	繰り返しに近い	128	5.40	0.553
	やや繰り返しに近い	227	5.50	
	どちらともいえない	93	5.80	
	やや繰り返しが少ない	42	5.90	
	繰り返しが少ないほう	10	5.10	
	合計	500	5.55	
F.通勤での困難があ る	繰り返しに近い	128	4.17	0.340
	やや繰り返しに近い	227	4.58	
	どちらともいえない	93	4.78	
	やや繰り返しが少ない	42	4.71	
	繰り返しが少ないほう	10	4.70	
	合計	500	4.53	
G.職場でのコミュニ ケーションがとりにく い	繰り返しに近い	128	4.69	0.083
	やや繰り返しに近い	227	5.18	
	どちらともいえない	93	5.25	
	やや繰り返しが少ない	42	5.76	
	繰り返しが少ないほう	10	5.00	
	合計	500	5.11	
H.他の社員の手助け や援助が必要である	繰り返しに近い	128	5.16	0.190
	やや繰り返しに近い	227	5.62	
	どちらともいえない	93	5.70	
	やや繰り返しが少ない	42	6.00	
	繰り返しが少ないほう	10	5.20	
	合計	500	5.54	

他部門と業務を調整する必要性:きわめて低い 1~極めて高い10

表9 業務の特性(代替可能性)とPresenteeisの影響(業務への影響:インパクト)の関係

		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む)に集中できない	代わりの人ができるに近い	44	5.57	0.007
	やや代わりの人ができる	131	5.53	
	どちらともいえない	142	5.35	
	やや熟練者を要する	135	5.83	
	熟練者を要するほう	48	4.40	
	合計	500	5.46	
B.仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	代わりの人ができるに近い	44	5.41	0.785
	やや代わりの人ができる	131	5.55	
	どちらともいえない	142	5.67	
	やや熟練者を要する	135	5.36	
	熟練者を要するほう	48	5.46	
	合計	500	5.51	
C.できる仕事の量や強度が少ない	代わりの人ができるに近い	44	6.48	0.140
	やや代わりの人ができる	131	6.30	
	どちらともいえない	142	6.35	
	やや熟練者を要する	135	6.69	
	熟練者を要するほう	48	6.98	
	合計	500	6.50	
D.作業がはかどらず仕事が終わらない	代わりの人ができるに近い	44	5.86	0.175
	やや代わりの人ができる	131	6.07	
	どちらともいえない	142	6.05	
	やや熟練者を要する	135	6.36	
	熟練者を要するほう	48	5.54	
	合計	500	6.07	
E.仕事上の間違いや失敗をする	代わりの人ができるに近い	44	6.00	0.301
	やや代わりの人ができる	131	6.26	
	どちらともいえない	142	6.18	
	やや熟練者を要する	135	6.45	
	熟練者を要するほう	48	5.69	
	合計	500	6.21	
F.通勤での困難がある	代わりの人ができるに近い	44	5.16	0.016
	やや代わりの人ができる	131	4.85	
	どちらともいえない	142	4.82	
	やや熟練者を要する	135	4.93	
	熟練者を要するほう	48	3.65	
	合計	500	4.78	
G.職場でのコミュニケーションがとりにくい	代わりの人ができるに近い	44	5.50	0.015
	やや代わりの人ができる	131	5.51	
	どちらともいえない	142	5.39	
	やや熟練者を要する	135	5.79	
	熟練者を要するほう	48	4.42	
	合計	500	5.45	
H.他の社員の手助けや援助が必要である	代わりの人ができるに近い	44	6.43	0.133
	やや代わりの人ができる	131	6.15	
	どちらともいえない	142	5.87	
	やや熟練者を要する	135	6.36	
	熟練者を要するほう	48	5.63	
	合計	500	6.10	

業務への影響:まったく影響しない 1~非常に影響が大きい 10

表10 業務と特性(代替え可能性)とPresenteeism(部課内で業務を調整する必要性)

		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む)に集中できない	代わりの人ができるに近い	44	4.89	0.000
	やや代わりの人ができる	131	6.00	
	どちらともいえない	142	5.79	
	やや熟練者を要する	135	6.07	
	熟練者を要するほう	48	4.67	
	合計	500	5.73	
B.仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	代わりの人ができるに近い	44	5.07	0.216
	やや代わりの人ができる	131	5.47	
	どちらともいえない	142	5.50	
	やや熟練者を要する	135	5.55	
	熟練者を要するほう	48	4.79	
	合計	500	5.40	
C.できる仕事の量や強度が少ない	代わりの人ができるに近い	44	5.61	0.681
	やや代わりの人ができる	131	5.72	
	どちらともいえない	142	5.80	
	やや熟練者を要する	135	5.91	
	熟練者を要するほう	48	5.44	
	合計	500	5.76	
D.作業がはかどらず仕事が終わらない	代わりの人ができるに近い	44	5.36	0.016
	やや代わりの人ができる	131	5.76	
	どちらともいえない	142	5.92	
	やや熟練者を要する	135	6.22	
	熟練者を要するほう	48	5.10	
	合計	500	5.83	
E.仕事上の間違いや失敗をする	代わりの人ができるに近い	44	5.91	0.298
	やや代わりの人ができる	131	5.90	
	どちらともいえない	142	5.85	
	やや熟練者を要する	135	6.12	
	熟練者を要するほう	48	5.25	
	合計	500	5.88	
F.通勤での困難がある	代わりの人ができるに近い	44	4.80	0.111
	やや代わりの人ができる	131	4.87	
	どちらともいえない	142	4.89	
	やや熟練者を要する	135	4.91	
	熟練者を要するほう	48	3.88	
	合計	500	4.79	
G.職場でのコミュニケーションがとりにくい	代わりの人ができるに近い	44	4.93	0.045
	やや代わりの人ができる	131	5.37	
	どちらともいえない	142	5.38	
	やや熟練者を要する	135	5.57	
	熟練者を要するほう	48	4.44	
	合計	500	5.30	
H.他の社員の手助けや援助が必要である	代わりの人ができるに近い	44	5.18	0.002
	やや代わりの人ができる	131	5.82	
	どちらともいえない	142	5.73	
	やや熟練者を要する	135	6.42	
	熟練者を要するほう	48	5.19	
	合計	500	5.84	

課内で業務を調整する必要性:きわめて低い1~極めて高い10

表11 業務と特性(代替え可能性)とPresenteeism(他部門と業務を調整する必要性)

		人数	平均値	P値
A.仕事(会議を含む)に集中できない	代わりの人ができるに近い	44	5.11	0.019
	やや代わりの人ができる	131	5.45	
	どちらともいえない	142	5.44	
	やや熟練者を要する	135	5.78	
	熟練者を要するほう	48	4.50	
	合計	500	5.41	
B.仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	代わりの人ができるに近い	44	4.68	0.194
	やや代わりの人ができる	131	5.11	
	どちらともいえない	142	5.11	
	やや熟練者を要する	135	5.36	
	熟練者を要するほう	48	4.54	
	合計	500	5.09	
C.できる仕事の量や強度が少ない	代わりの人ができるに近い	44	4.91	0.072
	やや代わりの人ができる	131	5.37	
	どちらともいえない	142	5.33	
	やや熟練者を要する	135	5.66	
	熟練者を要するほう	48	4.71	
	合計	500	5.33	
D.作業がはかどらず仕事が終わらない	代わりの人ができるに近い	44	4.93	0.017
	やや代わりの人ができる	131	5.43	
	どちらともいえない	142	5.61	
	やや熟練者を要する	135	5.97	
	熟練者を要するほう	48	4.92	
	合計	500	5.53	
E.仕事上の間違いや失敗をする	代わりの人ができるに近い	44	5.05	0.065
	やや代わりの人ができる	131	5.56	
	どちらともいえない	142	5.55	
	やや熟練者を要する	135	5.93	
	熟練者を要するほう	48	4.96	
	合計	500	5.55	
F.通勤での困難がある	代わりの人ができるに近い	44	4.09	0.050
	やや代わりの人ができる	131	4.63	
	どちらともいえない	142	4.72	
	やや熟練者を要する	135	4.67	
	熟練者を要するほう	48	3.69	
	合計	500	4.53	
G.職場でのコミュニケーションがとりにくい	代わりの人ができるに近い	44	4.68	0.007
	やや代わりの人ができる	131	5.16	
	どちらともいえない	142	5.13	
	やや熟練者を要する	135	5.52	
	熟練者を要するほう	48	4.17	
	合計	500	5.11	
H.他の社員の手助けや援助が必要である	代わりの人ができるに近い	44	4.95	0.014
	やや代わりの人ができる	131	5.68	
	どちらともいえない	142	5.37	
	やや熟練者を要する	135	5.99	
	熟練者を要するほう	48	4.96	
	合計	500	5.54	

他部門と業務を調整する必要性:きわめて低い1~極めて高い10

表12 定型性と代替可能性の組み合わせとPresenteeismの影響(業務への影響・インパクト)の関係

	人数	平均値	標準偏差	有意確率
A. 仕事(会議を含む)に集中できない	定型代替可能 a	32	5.4	2.8
	定型代替中間 b	75	4.8	2.5
	定型熟練 c, d	10	2.4	2.0
	非定型代替可能 c	12	5.9	2.7
	非定型代替中間 d	333	5.7	2.0
	非定型熟練	38	4.9	3.1
	合計	500	5.5	2.3
B. 仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	定型代替可能	32	5.3	2.7
	定型代替中間	75	5.2	2.2
	定型熟練	10	4.2	1.7
	非定型代替可能	12	5.8	3.1
	非定型代替中間	333	5.6	1.8
	非定型熟練	38	5.8	2.8
	合計	500	5.5	2.0
C. できる仕事の量や強度が少ない	定型代替可能	32	6.6	2.4
	定型代替中間	75	6.2	2.2
	定型熟練	10	8.2	1.6
	非定型代替可能	12	6.2	2.6
	非定型代替中間	333	6.5	1.6
	非定型熟練	38	6.7	2.3
	合計	500	6.5	1.9
D. 作業がはかどらず仕事が終わらない	定型代替可能	32	5.7	2.6
	定型代替中間	75	5.9	2.1
	定型熟練	10	4.9	2.4
	非定型代替可能	12	6.4	3.1
	非定型代替中間	333	6.2	1.8
	非定型熟練	38	5.7	3.0
	合計	500	6.1	2.1
E. 仕事上の間違いや失敗をする	定型代替可能	32	6.0	2.9
	定型代替中間	75	6.0	2.1
	定型熟練	10	4.6	2.3
	非定型代替可能	12	5.9	3.1
	非定型代替中間	333	6.4	1.9
	非定型熟練	38	6.0	3.1
	合計	500	6.2	2.2
F. 通勤での困難がある	定型代替可能 a	32	5.3	3.0
	定型代替中間	75	4.6	2.6
	定型熟練 a	10	2.6	2.0
	非定型代替可能	12	4.8	2.9
	非定型代替中間	333	4.9	2.2
	非定型熟練	38	3.9	2.9
	合計	500	4.8	2.4
G. 職場でのコミュニケーションがとりにくい	定型代替可能	32	5.3	3.0
	定型代替中間 b	75	5.0	2.5
	定型熟練 b, c	10	2.9	2.5
	非定型代替可能 c	12	6.0	3.0
	非定型代替中間 d	333	5.7	2.1
	非定型熟練 e	38	4.8	2.9
	合計	500	5.4	2.3
H. 他の社員の手助けや援助が必要である	定型代替可能	32	6.2	2.5
	定型代替中間	75	5.5	2.4
	定型熟練	10	5.9	3.3
	非定型代替可能	12	7.2	2.3
	非定型代替中間	333	6.3	1.9
	非定型熟練	38	5.6	3.1
	合計	500	6.1	2.2

a:「定型代替可能」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

b:「定型代替中間」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

c:「非定型代替可能」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

d:「非定型代替中間」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

e:「非定型熟練」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

表13 定型性と代替え可能性の組み合わせとPresenteeism(部課内で業務を調整する必要性)

	人数	平均値	標準偏差	有意確率
A. 仕事(会議を含む)に集中できない	定型代替え可能	32	4.7	2.7
	定型代替え中間	75	5.6	2.6
	定型熟練	10	3.4	2.2
	非定型代替え可能	12	5.5	2.5
	非定型代替え中間	333	6.0	1.9
	非定型熟練	38	5.0	3.0
	合計	500	5.7	2.3
B. 仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	定型代替え可能	32	4.7	2.4
	定型代替え中間	75	5.1	2.4
	定型熟練	10	3.4	2.1
	非定型代替え可能	12	6.0	2.7
	非定型代替え中間	333	5.6	2.0
	非定型熟練	38	5.2	2.9
	合計	500	5.4	2.2
C. できる仕事の量や強度が少ない	定型代替え可能	32	5.3	2.5
	定型代替え中間	75	5.5	2.0
	定型熟練	10	4.5	2.9
	非定型代替え可能	12	6.4	2.0
	非定型代替え中間	333	5.9	1.8
	非定型熟練	38	5.7	2.8
	合計	500	5.8	2.0
D. 作業がはかどらず仕事が終わらない	定型代替え可能	32	5.0	2.6
	定型代替え中間	75	5.6	2.2
	定型熟練	10	4.2	2.9
	非定型代替え可能	12	6.3	2.4
	非定型代替え中間	333	6.1	2.0
	非定型熟練	38	5.3	2.8
	合計	500	5.8	2.2
E. 仕事上の間違いや失敗をする	定型代替え可能	32	5.8	2.7
	定型代替え中間	75	5.7	2.7
	定型熟練	10	4.7	2.4
	非定型代替え可能	12	6.1	2.8
	非定型代替え中間	333	6.0	2.1
	非定型熟練	38	5.4	3.3
	合計	500	5.9	2.3
F. 通勤での困難がある	定型代替え可能	32	4.7	2.9
	定型代替え中間	75	4.5	2.7
	定型熟練	10	2.7	2.4
	非定型代替え可能	12	5.2	2.9
	非定型代替え中間	333	5.0	2.2
	非定型熟練	38	4.2	3.1
	合計	500	4.8	2.4
G. 職場でのコミュニケーションがとりにくい	定型代替え可能	32	4.6	2.7
	定型代替え中間	75	4.8	2.6
	定型熟練	10	2.1	2.1
	非定型代替え可能	12	5.8	3.0
	非定型代替え中間	333	5.6	2.0
	非定型熟練	38	5.1	3.1
	合計	500	5.3	2.3
H. 他の社員の手助けや援助が必要である	定型代替え可能	32	4.7	3.0
	定型代替え中間	75	5.7	2.5
	定型熟練	10	4.6	3.6
	非定型代替え可能	12	6.5	2.3
	非定型代替え中間	333	6.1	1.9
	非定型熟練	38	5.3	3.2
	合計	500	5.8	2.2

- a:「定型代替え可能」と「定型熟練」間の有意な差があるもの
- b:「定型代替え中間」と「定型熟練」間の有意な差があるもの
- c:「非定型代替え可能」と「定型熟練」間の有意な差があるもの
- d:「非定型代替え中間」と「定型熟練」間の有意な差があるもの
- e:「非定型熟練」と「定型熟練」間の有意な差があるもの



表14 定型性と代替可能性の組み合わせとPresenteeism(他部門と業務を調整する必要性)

	人数	平均値	標準偏差	有意確率
A. 仕事(会議を含む)に集中できない	定型代替可能	32	4.7	2.6
	定型代替中間	75	5.3	2.6
	定型熟練	10	3.9	2.4
	非定型代替可能	12	6.3	2.6
	非定型代替中間	333	5.6	2.0
	非定型熟練	38	4.7	3.1
	合計	500	5.4	2.3
B. 仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	定型代替可能	32	4.3	2.5
	定型代替中間	75	4.6	2.5
	定型熟練	10	3.2	2.5
	非定型代替可能	12	5.8	3.3
	非定型代替中間	333	5.3	2.0
	非定型熟練	38	4.9	2.9
	合計	500	5.1	2.3
C. できる仕事の量や強度が少ない	定型代替可能	32	4.3	2.2
	定型代替中間	75	4.9	2.4
	定型熟練	10	3.5	2.8
	非定型代替可能	12	6.5	2.0
	非定型代替中間	333	5.6	2.0
	非定型熟練	38	5.0	2.9
	合計	500	5.3	2.2
D. 作業がはかどらず仕事が終わらない	定型代替可能	32	4.4	2.4
	定型代替中間	75	5.1	2.3
	定型熟練	10	3.7	3.2
	非定型代替可能	12	6.3	2.5
	非定型代替中間	333	5.8	2.0
	非定型熟練	38	5.2	3.0
	合計	500	5.5	2.3
E. 仕事上の間違いや失敗をする	定型代替可能	32	4.8	2.8
	定型代替中間	75	5.2	2.5
	定型熟練	10	4.0	3.3
	非定型代替可能	12	5.7	2.6
	非定型代替中間	333	5.8	2.1
	非定型熟練	38	5.2	3.0
	合計	500	5.6	2.3
F. 通勤での困難がある	定型代替可能	32	3.9	2.5
	定型代替中間	75	4.1	2.6
	定型熟練	10	2.7	2.3
	非定型代替可能	12	4.6	2.8
	非定型代替中間	333	4.8	2.2
	非定型熟練	38	3.9	2.6
	合計	500	4.5	2.3
G. 職場でのコミュニケーションがとりにくい	定型代替可能	32	4.5	2.6
	定型代替中間	75	4.7	2.4
	定型熟練	10	2.2	2.0
	非定型代替可能	12	5.3	3.0
	非定型代替中間 b	333	5.4	2.0
	非定型熟練	38	4.7	3.0
	合計	500	5.1	2.3
H. 他の社員の手助けや援助が必要である	定型代替可能	32	4.4	2.8
	定型代替中間	75	5.3	2.4
	定型熟練	10	3.5	3.5
	非定型代替可能	12	6.3	2.5
	非定型代替中間	333	5.8	2.0
	非定型熟練	38	5.3	3.1
	合計	500	5.5	2.3

a:「定型代替可能」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

b:「定型代替中間」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

c:「非定型代替可能」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

d:「非定型代替中間」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

e:「非定型熟練」と「定型熟練」間の有意な差があるもの

表15 調査1におけるpresenteeismの平均値（性別）

presenteeism	性別	人数	平均値	標準偏差	p
A. 仕事(会議を含む)に集中できない	男性	535	2.28	.883	0.762
	女性	324	2.27	.868	
B. 仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	男性	535	2.11	.860	0.751
	女性	324	2.13	.929	
C. できる仕事の量や強度が少ない	男性	535	2.03	.833	0.731
	女性	324	2.05	.890	
D. 作業がはかどらず仕事が終わらない	男性	535	2.07	.879	0.206
	女性	324	2.00	.864	
E. 仕事上の間違いや失敗をする	男性	535	2.02	.807	0.859
	女性	324	2.01	.810	
F. 通勤での困難がある	男性	535	1.67	.708	0.659
	女性	324	1.70	.772	
G. 職場でのコミュニケーションがとりにくい	男性	535	1.86	.806	0.625
	女性	324	1.89	.857	
H. 他の社員の手助けや援助が必要である	男性	535	1.66	.707	0.83
	女性	324	1.65	.767	

表16 調査1におけるpresenteeismの平均値（年代別）

		度数	平均値	標準偏差	p
A. 仕事(会議を含む)に集中できない	20歳代	64	2.4	0.9	<0.000
	30歳代	205	2.3	0.9	
	40歳代	290	2.4	0.9	
	50歳代	245	2.2	0.8	
	60歳代以上	55	1.8	0.8	
	合計	859	2.3	0.9	
B. 仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	20歳代	64	2.2	1.0	<0.000
	30歳代	205	2.2	0.9	
	40歳代	290	2.2	0.9	
	50歳代	245	2.0	0.8	
	60歳代以上	55	1.7	0.7	
	合計	859	2.1	0.9	
C. できる仕事の量や強度が少ない	20歳代	64	2.1	0.9	0.023
	30歳代	205	2.1	0.9	
	40歳代	290	2.1	0.8	
	50歳代	245	2.0	0.8	
	60歳代以上	55	1.7	0.8	
	合計	859	2.0	0.9	
D. 作業がはかどらず仕事が終わらない	20歳代	64	2.0	0.9	<0.000
	30歳代	205	2.1	0.9	
	40歳代	290	2.2	0.9	
	50歳代	245	2.0	0.9	
	60歳代以上	55	1.6	0.7	
	合計	859	2.0	0.9	
E. 仕事上の間違いや失敗をする	20歳代	64	2.0	0.8	0.002
	30歳代	205	2.1	0.8	
	40歳代	290	2.1	0.8	
	50歳代	245	1.9	0.8	
	60歳代以上	55	1.7	0.7	
	合計	859	2.0	0.8	
F. 通勤での困難がある	20歳代	64	1.8	0.8	0.202
	30歳代	205	1.7	0.8	
	40歳代	290	1.7	0.8	
	50歳代	245	1.6	0.7	
	60歳代以上	55	1.6	0.6	
	合計	859	1.7	0.7	
G. 職場でのコミュニケーションがとりにくい	20歳代	64	1.9	0.9	0.003
	30歳代	205	1.9	0.9	
	40歳代	290	2.0	0.9	
	50歳代	245	1.8	0.8	
	60歳代以上	55	1.6	0.6	
	合計	859	1.9	0.8	
H. 他の社員の手助けや援助が必要である	20歳代	64	1.6	0.8	0.014
	30歳代	205	1.7	0.7	
	40歳代	290	1.7	0.8	
	50歳代	245	1.6	0.7	
	60歳代以上	55	1.5	0.5	
	合計	859	1.7	0.7	

表17 調査1における年代別の違い（60歳代以上と60歳未満の比較）

年代60以上	人数	平均値	標準偏差	p	年齢補正值*	
A. 仕事(会議を含む)に集中できない	20-50歳代 60歳代	804 55	2.3 1.8	0.9 0.8	<0.000	0.78
B. 仕事をするのに人より多く休憩を必要とする	20-50歳代 60歳代	804 55	2.1 1.7	0.9 0.7		
C. できる仕事の量や強度が少ない	20-50歳代 60歳代	804 55	2.1 1.7	0.9 0.8	0.008	0.81
D. 作業がはかどらず仕事が終わらない	20-50歳代 60歳代	804 55	2.1 1.6	0.9 0.7	<0.000	0.76
E. 仕事上の間違いや失敗をする	20-50歳代 60歳代	804 55	2.0 1.7	0.8 0.7	0.001	0.85
F. 通勤での困難がある	20-50歳代 60歳代	804 55	1.7 1.6	0.7 0.6	0.495	1
G. 職場でのコミュニケーションがとりにくい	20-50歳代 60歳代	804 55	1.9 1.6	0.8 0.6	0.004	0.84
H. 他の社員の手助けや援助が必要である	20-50歳代 60歳代	804 55	1.7 1.5	0.7 0.5	0.038	0.88

\* 回答者が60歳以上の場合は上司の評価得点を年齢補正值で割り算する